

## 外国語を勉強することについて

細谷 和宏

最近つくづく感じることについてレポートします。外国語を勉強することについてです。

日本人は、日常的にマザーランゲージ以外の必要性を実感される方はそれほど多くないと思います。日本人同士であればあまり言葉数を交わさなくても阿吽の呼吸で互いの意思を理解し合います。これが悪いことというのではないのですが、外国人にはまったくこの感性はないということを実感しました。他の国の人とつねに接してなければ生活できない今の私の環境では一番に感じることは、言葉というのは自分の意思を相手に伝える道具なんだな、ということです。

ネジを回すのにドライバーを使ったり、くぎを打つのにハンマーが必要だったりするように自分の意思を表現する道具として言葉があるのだと実感したことです。前にも少しご紹介しましたが、ここ山西大学で中国語を学ぶ学生の中で日本人は私ひとりです。こんな環境で長期間過ごすことは今までの人生ではありませんでした。加えて日常生活を管理する事務局も英語か中国語だけです。二三週間日本語で会話することがないこともざらです。そんな環境へ飛び込んできた私は、今英語と中国語で日常生活をこなしています。そもそも、特別な語学レッスンを今まで受けたことが一度もない私ですが、キッチンで英語を使いみんなと食事を作って楽しく食べたり、カラオケに行ったりしています。まさに自分の意思を人に伝えるために言語を道具として使い始めた初めての体験を経験し始めているところです。このあと述べますが、もちろん意思が伝わらないこともたくさんありますし、もっと違ったニュアンスを伝えたいのに伝えられないと感じることもたくさんあります。それでもなんとか日常生活に困らない程度にコミュニケーションができているのは、第一のステップとして、とにかく道具としてどんどん外国語を使うことを怖がらないで使っていることだと思うのです。

あらためてお話しますが、このレポートは中国語の習得のことより、むしろ、日常生活する際に使っている英語についてのお話が中心になってしまうことをお許してください。

日本人はニュアンスだけでなんとなく意思の疎通を図ろうとしますが、これは世界的にみてまったく行われなないコミュニケーションの手段だということを知るべきだと思うのです。また、日本人は、まじめに英語を何十年も勉強して

もあまり会話ができない国民です。普段使用する必要性がないことも原因だと思いますが、それ以上にこの段階まで語学力がないと話すべきでないどこかで思っているのではないのでしょうか。そうでないと恥をかいたり、会話が途絶えてしまうことが怖くて会話できないと思っているのではないのでしょうか。まず、日本人の語学トレーニングで私が間違っていると思うのは、生意気ですが、ハローを習ったらその場でハローと外国人に恥ずかしがらずに言う勇気をまず教育すべきだと思うのです。

私を感じるだけかもしれませんが、大学入試の英語長文読解の文の半分でも会話として英語を使えたら十分日常生活できると思います。なぜこの長文が読み取れて外国人に道を聞かれて逃げてしまうのでしょうか。日本人のみなさん、どんどん怖がらずに英語を使いましょうよと私は言いたいのです。

私を実感としてまず言いたかったことは、とにかく恥ずかしがらずにどんどん他国語を使いましょうと言うことです。あまり理解できなくても今は中国語で値引き交渉もするし、バスに乗ってどこどこへ行きたいので近くなったら降りられるように教えて、などと話しかけると、外国人が珍しい中国人は見ず知らずの中国人同士がみんな話合せて協力して教えてくれたりもして、今ではどこへでも苦もなくバスを使っています。

そして、次のステップですが、意思をはっきり伝えると言うことです。

私が英語で話しているときに感じることは、とにかくみんなノーとはっきりと言います。話し手の意図で質問した内容は、あくまで話し手の意思であって、質問に回答する者の意思ではないので、ノーという回答になるのは当たり前だと思います。「これから食堂に行くけどいっしょに行く？」と聞かれれば、日本人だったらあまりお腹が空いていなくてもせっかく誘われたんだからとイエスと言ってしまいそうなところでも、人に同調しようなどとみじんも思わない外国人は必要なければノーと言う。言われた方もなんのショックもなくオッケーと言ってひとりで食堂に行く。これが当たり前なのです。いつでも誰かをつるんでいないといられない日本人とは感覚がまるで違います。

ちょっと話の趣旨に反れますが、実はノーと同じくらい、ノーアイデアやアйдントノーなどもよく使っています。さらに言えば、たとえば「KFCとマクドナルドとどっち行く？」と聞くと「あなたが決めてよ。」という意味で「ユーチョイス」という言葉もよく使っています。

いずれにしても、意思がなければノーアイデアでも一向に構わないし、とにかく自分の意思をはっきり言うということが肝心だと思いました。



私の部屋です。10畳くらいのワンルームで、左に勉強机、テレビ、クローゼットなどがあり、共同トイレ、共同シャワー室、キッチンなどが別にあります。

最後に私が語学を習得する上でステップがあると感じたことをお話します。それは会話力にも段階があるということです。

#### ステップ 1

こんにちは、おはよう、これいくら？チェックインして、などいわゆる外国のビジターとしての必要会話力。

#### ステップ 2

ある程度自分の意思を相手に理解させることができる語学力。たとえば、これから寿司を作ろうと思うんだけど、太原市内で刺身を買えるようなお店を知っていたら教えてほしい、とかあなたのスパニッシュワインの輸入の仕事は税金をどのように申告しているのかなど。

#### ステップ 3

男女の性差別に繋がらないこと、ブラックジョークでないこと、人種、信仰に関することでないことなどに配慮したジョークをつねに会話に織り込みながら話ができること。

あくまでも、文書の理解力ではなく、日常会話をスムーズにできることに対

しての私なりに思ったステップです。

特に、ステップ3の壁は厚く、これを越えられるか越えられないかで会話のなかに入れるかが決まるように感じます。たとえば、フランス人が私に英語で日本のキャラクターにとっても興味を持っていると話してきたので、どんなキャラクターが好きなのか聞くと、〇〇が好きだと言うので今度日本へ帰ったときに何か日本だけの限定品があったら見つけてくるよと言うような会話は結構日常で私もします。でも、いつも日本のキャラクターの話題がみんなの会話の中心にあるわけではないのです。あくまで、私に聞いてくれたからこの話題であって、普段はなんで中国人ってこうなんだろうねだとか、この前行ったカラオケは楽しかったよねなどのみんなが話せる話題がほとんどです。まだ留学当初はシャワー室はどこにあるのかや電気器具を買える店を知っているかなど必要会話が多かったのですが、今ではほとんどがなんでもない会話が中心でみんなでその会話の合間合間にジョークを言い合って笑って過ごしています。

ところが、私のレベルではある程度何について話しているかはわかるものの、ステップ3の段階には到底なく、その合間にウイットに富んだジョークを挟めるだけの語学力がないので、だんだん日常会話のなかでいつも聞き手に徹するような状況ができてしまっています。私のことをみんな仲間と認めてくれてなんでも誘ってくれていてみんなといっしょに過ごしていますが、最近は何んだか金魚の糞みたいな存在になってきているような気がします。もし、この第三の壁を克服できたらもっとみんなの中心に入っていけるのにといつもさみしい思いをしています。でも、めげません。もっともっと今まで使ったことのない英語を恥をかきかき使っていこうと思います。

余談ですが、中国では何十年前かの日本みたいに外国人みなスターみたいはどこへ行ってもじろじろ見られます。先日もアメリカ人、フランス人、イタリア人、ブルガリア人、モロッコ人、バハマ人などと街に出たのですがじろじろ見られっぱなしです。最近では私も見られるのに慣れ、まったく関係なく行動できるようになりましたが。

日本人は自分の意思をはっきりと言葉で伝えることが苦手だと言われます。会議でも「前向きに善処します。」など、いったいあなたはやるのかやらないのかといった感じです。最近ではどこに行くのか、いっしょに行きたいけどいいかなど、自分から積極的に話しかけているので遊びの際には私のことをなくてはならない存在にみんな感じてくれてどこか行くとかパーティをすとかいう際にはありがたいことに必ず誘ってくれるようになりました。



学生食堂です。定食のような食事が100円くらいから食べられます。